

平成23年度における読書活動 推進施策について（報告）

平成24年6月

秋 田 県

目 次

I	はじめに	1
II	基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況	1
III	読書活動推進の施策	2
第 1	「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の 情報発信の拠点」機能の強化	2
(1)	図書資料の充実	2
(2)	図書資料を活かす人材の確保と配置	5
(3)	情報発信・効率的な利用システムの構築	6
(4)	開放性	9
第 2	県民・民間団体・企業等による読書活動の推進	10
(1)	ボランティア活動を担う人材養成と活動への支援	10
(2)	活動団体等のネットワークづくり	10
(3)	企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携	10
第 3	読書をしやすい環境づくり	11
(1)	行政の取組	11
(2)	学校等での取組	12
(3)	家庭での取組	13
(4)	職場での取組	14
(5)	各民間団体等を通じた読書の普及・啓発	14
第 4	読書に関する県民運動の推進	14
(1)	読書の楽しみ	14
(2)	図書資料の確保・充実	15
(3)	いつでもどこでも読書	16
IV	「達成すべき目標数値」平成23年度実績	17

I はじめに

本県では、読書活動は県民が人生を豊かに生きる上で大切なものであり、文化的で豊かな社会の構築に寄与するものとして、「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」（以下「条例」という。）が県議会平成22年2月定例会において可決・成立し、同年3月に公布、4月1日から施行されている。

また、平成23年3月には、条例に基づく「秋田県読書活動推進基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、読書活動の推進に関する施策を総合的・計画的に進めるための態勢を整えたところである。

本報告は、条例第4条第2項に基づき、平成23年度に基本計画に従って実施した施策について明らかにするため、作成するものである。

○ 秋田県民の読書活動の推進に関する条例【抜粋】

（県民読書活動推進基本計画）

第四条 県は、県民の読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、県民の読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を策定するものとする。

2 県は、毎年、基本計画により実施した施策を議会に報告するものとする。

3 県は、必要があると認めるときは、基本計画を変更するものとする。

II 基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況

読書は、人生を心豊かで潤いのあるものにしてくれる大変有意義な活動である。人は読書を通して、心を癒されたり、あるいは勇気づけられたりと、実に様々なことを体験している。本の中では、全く別の人生を生きることも可能となるほか、一冊の本との出会いが人生の転機となるという場合さえある。

こうした読書の優れた側面に照らしたとき、今後の社会をより豊かなものにしていくうえでは、誰もが生涯を通じて読書に親しむことのできる環境を作り上げ、また気運を盛り上げていくことが非常に重要となる。

県では、県民総ぐるみで読書活動を推進していくため、県民一人ひとりが子どものころから読書に親しむ習慣を身につけ、様々な場面で本に接する機会が確保されるよう各種施策を進めていくこととしているが、基本計画の冒頭において、その推進に係る4つの基本的方向を次のとおり定めている。

- 1 県民のライフステージや環境に応じて、読書に親しむ環境を整える。
- 2 勉学、仕事、余暇活動など生活の様々な場面で、気軽に読書することができる環境を整える。
- 3 読書活動を通して、地域のコミュニティの形成を図り、地域の絆を深める。
- 4 読書活動は習慣付けが重要であることから、特に子どもの読書活動を積極的に推進する。

平成23年度は基本計画の初年度として、4つの方向性に沿って、読書活動推進に係る施策・事業を、県を挙げて、展開してきた。また、事業の推進にあたっては、子供から大人まで、広く県民に読書の良さを認識していただくとともに、日々の生活の中で誰でも気軽に読書に親しめるような環境づくりにつながるよう、市町村はもとより、ボランティア、民間団体・企業と十分に連携を図りながら実施してきたところである。

もとより、読書活動の推進については、成果が目に見えてあがる分野ではないが、読み聞かせボランティア等による学校や児童館などでの活動やそれを支援する「スキルアップ研修会」の開催など様々な取り組みを通じて、読書の良さ、大切さを県民にアピールできた1年であったと考えている。また、同研修会の参加者からは、研修内容への評価と合わせ研修会の継続実施を望む声が多数寄せられるなど、読書推進への機運も芽生えつつあると感じられる。

平成24年度以降も、引き続き、市町村、民間団体等と一体となって、多くの県民が読書に親しめるよう、基本計画に掲げる4つの柱に沿って、読書推進活動を着実に推進していく必要がある。

Ⅲ 読書活動推進の施策

第1 「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の情報発信の拠点」機能の強化

(1) 図書資料の充実

県民が読みたい本を選択できるようにするためには、図書館をはじめとした各施設の図書資料の充実、読みたい本にたどり着けるような環境づくりが必要となる。また、低年齢期には読書の習慣を身につけるきっかけとなる本と出会うことなどが大切であることから、以下のような取組を行った。

- 公立図書館等における図書資料の充実促進を図るため、県図書館協会が実施している出前研修において、資料選定について研修の要望のあった4市町で県立図書館

員による助言・指導を行った。

・研修実施市町 能代市、横手市、鹿角市、羽後町

- 幼稚園・保育所、児童館の図書室の図書資料の充実を図るため、県民に絵本などの寄贈を呼びかけ、それを希望する公共施設等に配布、再活用する「スギッチリサイクル文庫」事業を実施し、幼稚園・保育所等を中心に絵本等の配布を行った。なお、本の回収にあたっては、市町村図書館に届けられた本を県立図書館の巡回車を使って回収する県・市町村図書館の連携ルートを活用した。

○ 配布施設数

市町村名	保育所・幼稚園	児童館・児童クラブ	その他、病院等	合 計
鹿角市	7	2		9
大館市	17	3	1	21
北秋田市	7	7	1	15
能代市	7	3	2	12
潟上市	6	8	0	14
男鹿市	4			4
秋田市	48	19	9	76
由利本荘市	4	1	2	7
にかほ市	3			3
大仙市	12	4		16
仙北市	5			5
横手市	11		3	14
湯沢市	7	3		10
藤里町		1		1
三種町	4	1		5
八峰町	3	4		7
八郎潟町		1		1
井川町	1	1		2
大潟村	1			1
美郷町	1			1
羽後町	1	2		3
東成瀬村	1			1
計	150	60	18	228

図書寄贈者数 205名（5，156冊）



「スグッチリサイクル文庫
寄贈の様子」
(ふじ保育園:秋田市)

- 低年齢期から本に親しむ環境を整えるため、市町村等がブックスタート*を進める場合の手立てとして、読み聞かせにふさわしい絵本等を紹介する「マザーズ・タッチ文庫」リーフレットを作成し、各市町村の幼稚園・保育所、児童館等へ配布するとともに、高齢者の読書環境を整備するため、高齢者が読みやすい大活字本を県立図書館に整備した。

※ ブックスタート：赤ちゃんとその保護者に絵本や子育てに関する情報を手渡し、絵本を通して心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動。

- ・「マザーズ・タッチ文庫」リーフレット配布数 59,000部
- ・大活字本購入点数 200冊

- 障害者の読書環境の充実については、県点字図書館における事業として点訳図書やデージー図書*等の制作を行ったほか、こうした図書の貸し出しを通して視覚障害者への図書提供サービスの向上に努めた。

※ デイジー図書：CDにデジタル録音した図書。従来のカセットテープとは異なり、目次から読みたいページに飛んだり、繰り返し聞いても音質が悪くならない等の利点がある。

- ・図書制作 点訳図書：569冊、音訳図書：174巻、
デージー図書：143枚
- ・図書貸し出し 点訳図書：3,199冊、音訳図書：10,406巻、
デージー図書：7,456枚、
定期刊行物：12,884タイトル

（２）図書資料を活かす人材の確保と配置

読書活動を推進するためには、図書資料というハード面での整備に加え、その図書資料を活用するうえでの人材面でのサポート体制も同時に整えていくことが重要となる。そのため、図書館の利用者に適切にサービスを提供できるよう専門的職員の配置やその能力の向上や読み聞かせやおはなし会などのボランティア活動を行う人々を育成するため、次のような事業を行った。

- 「子ども読書夢プラン事業（平成２１年度～）」の実施により、平成２３年度も継続して地域の読書活動を推進する職員を、読書サポーターとして市町村に派遣するとともに、知識・技能の向上を図るための研修会を実施し、人材の育成に努めた。また、図書館などを会場に子どもたちへの読み聞かせを行うボランティアと合同で研修を行うことにより、図書館と学校、ボランティアのネットワークづくりを行った。

- ・「子ども読書夢プラン」読書サポーター派遣実績　２３市町村、２５名
(独自配置の２市を除く)

- ・研修会実施回数　　５回（うち合同研修会２回）

- 図書館関係職員の能力向上の機会を提供するため、県図書館協会の出前研修等の制度を活用し、市町村図書館や学校図書館の運営に関する研修会を実施したほか、県子ども読書支援センターの職員等を各市町村の読書関係ボランティア向け研修会に講師として派遣し、ボランティア等、人材の育成を図った。

- ・研修実施回数　　市町村　２９回、学校図書館　７回

- ・子ども読書支援センター職員　講師派遣回数　１４回

- 学校図書館における図書資料の活用充実を図るため、学校図書館法施行令により、司書教諭を置かないことができるとされている学級数１１以下の小・中学校への司書教諭の活用について学校訪問時等において指導したほか、高校等においても同様の司書教諭の配置を進めた。そのほか、各学校において図書館利用の手引きとなる運営マニュアル等の整備、授業等での図書館の活用計画の策定等、学校図書館の利用促進について学校訪問時等において指導に努めた。

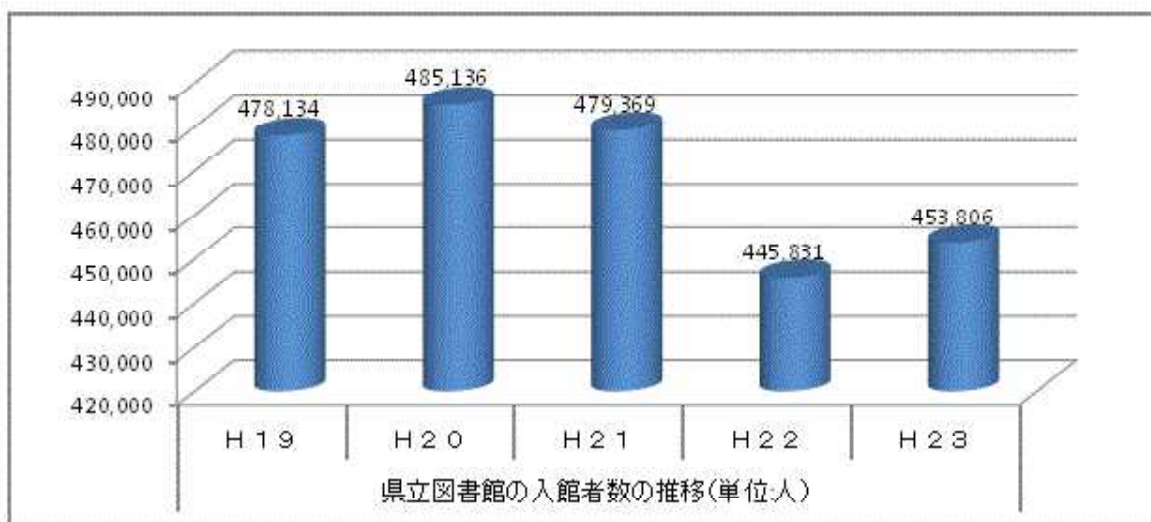
(3) 情報発信・効率的な利用システムの構築

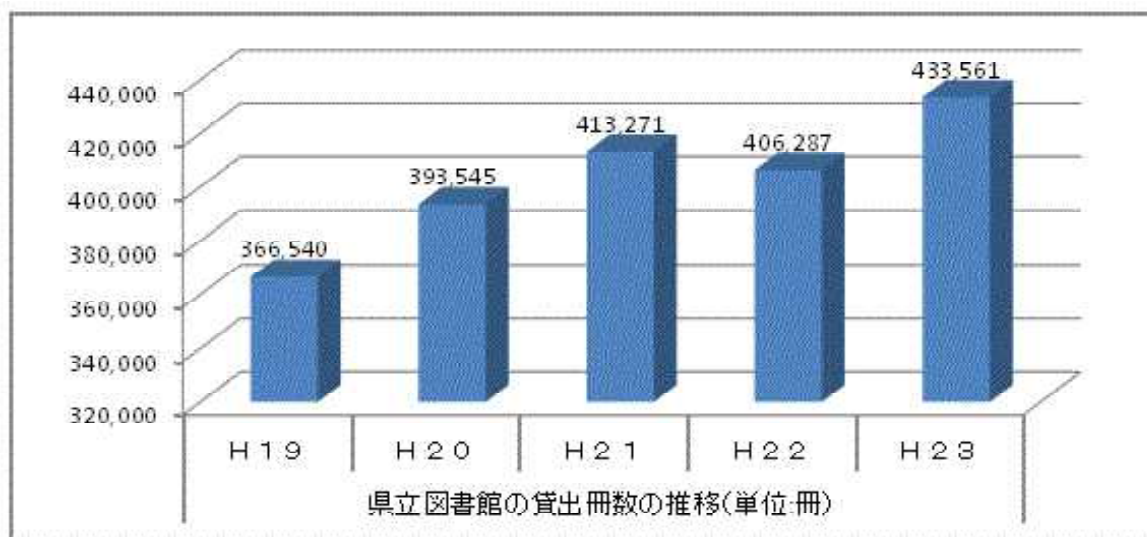
各図書館等が互いに十分に連携し、読書に関する情報が効率的に発信されるなど、利用者にとって利便性の高い施設となるよう、情報発信機能等の強化を図り図書館の利用増に努めた。

① 県立図書館の充実

○ 県立図書館において、子育て情報コーナー、健康情報コーナーを新設したほか、ビジネス支援、ティーンズコーナーのリニューアルや時季や時事に対応したテーマ展示を開催するなど、テーマ別のコーナー充実・環境整備を図り、利用者等の利便の向上に努めた。

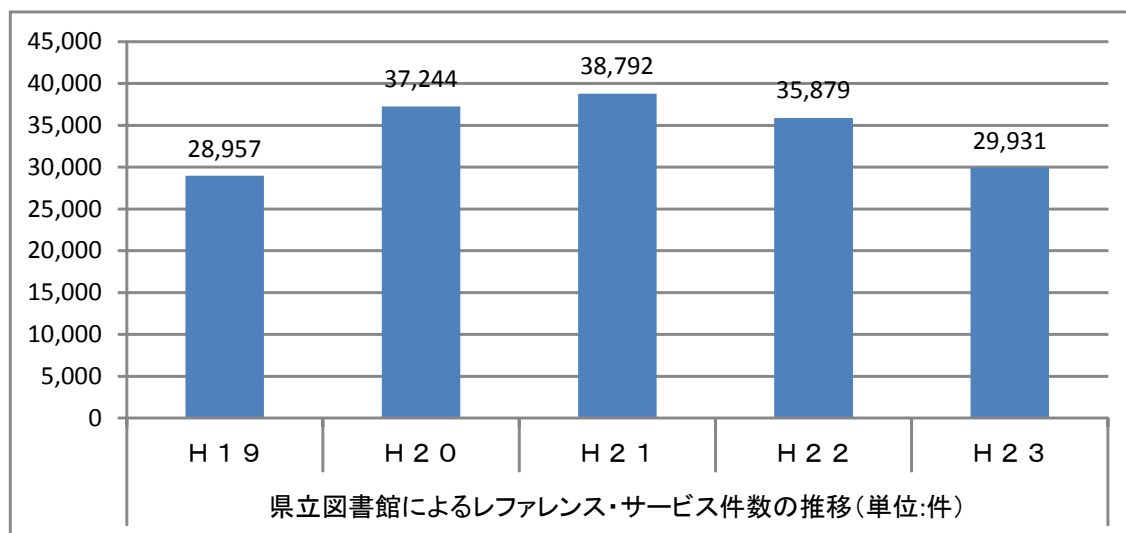
○ 入館者数は、平成23年3月の東日本大震災の発生により休館を余儀なくされたことや館内工事により開館日数が327日間と短くなったことにより、平成22年度においては減少したが、平成23年度は時間短縮等、地震の影響はまだ残ったものの開館日数は339日と前年に比べ12日間増加したため、入館者数にも回復がみられた。また、貸出冊数についても入館者数と同様の傾向がみられたが、平成23年度は震災の影響から回復するとともに、国の交付金事業を活用した図書資料の充実が図られたことが貸出冊数の増加の要因となったものと考えられる。



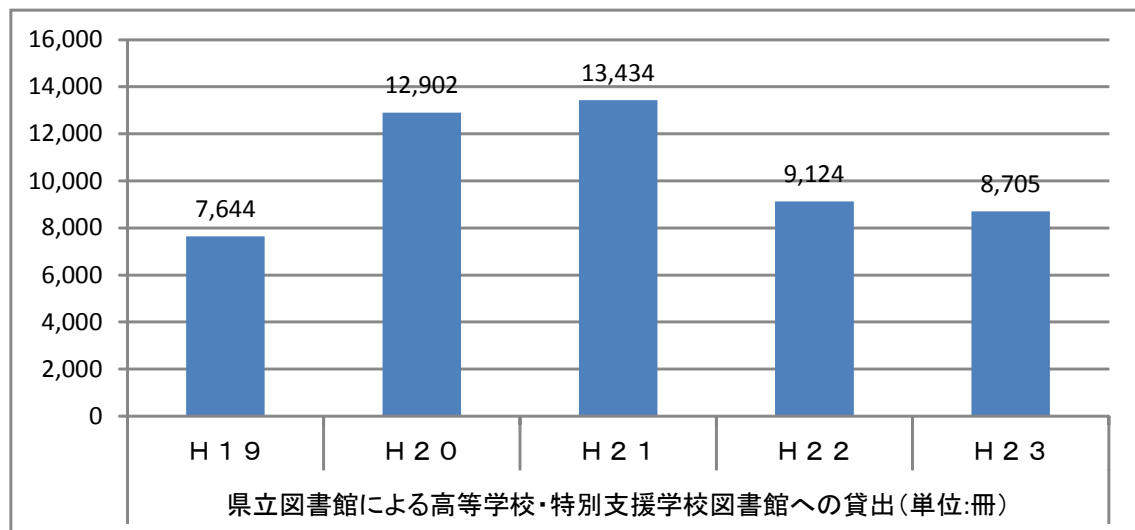
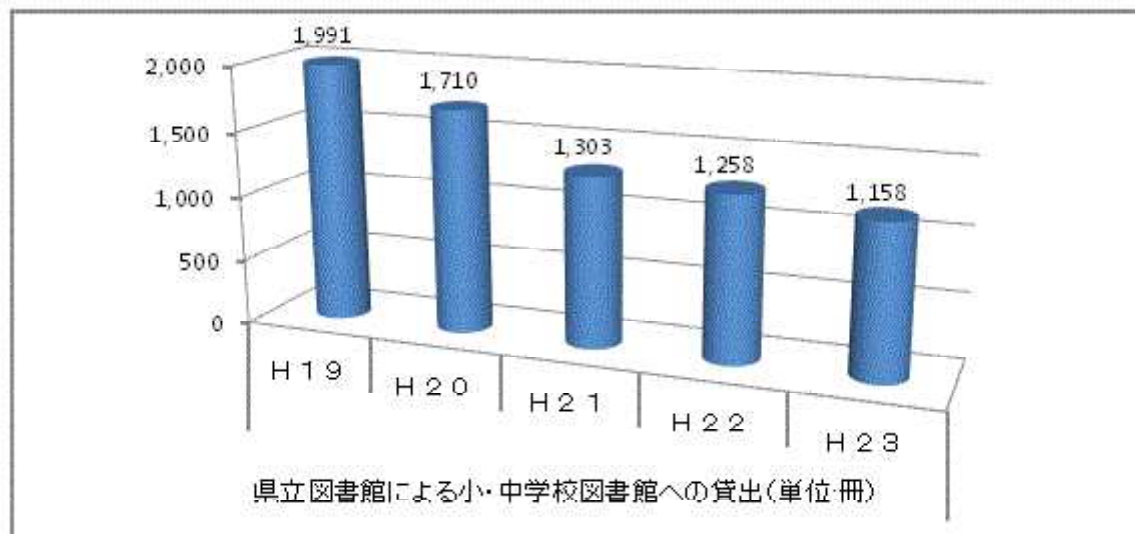


- 県立図書館のレファレンス・サービスについては、平成23年度は、前年度比で17%減となった。ホームページでの情報提供量の増加により、主に所蔵調査などのレファレンス件数が減少しているものと思われる。今後は、課題解決サービスの中心となるレファレンス・サービス*のPR及び提供方法の検討が課題となる。

※ 図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際、情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を、検索・提供・回答することによってこれを助ける業務。



- 県立学校図書館への貸出については、パックによる貸出事業開始から5年が経過したが、新規の図書購入が少なく、徐々に減少してきた。パック配本を一律配本から希望制に移行したことにより利用が一部の学校に集中している事情もあるが、利用増に向けて新規購入以外にも手立てが必要な状況であり、パック内容の組み替えや資料活用に関する研修等により利用を呼びかけるなどの対策を進めていく。



② 市町村立図書館の取組と支援

- 市町村立図書館の取組を支援するため、県立図書館による市町村図書館等への業務支援・情報提供のための巡回支援を実施したほか、図書館のコーナー設置や配架のしかたなど、図書館運営の実際について根本的な見直しを行う特別支援事業を行った。

- ・図書館等への巡回訪問、助言館数 62館
- ・市町村図書館等特別支援事業 4館

③ 学校図書館の取組と支援

- 学校図書館の取組支援については、小・中学校において「司書教諭の手引き」の活用を促すとともに、小・中学校及び特別支援学校への学校訪問時に公立図書館等と連携した活動の促進について指導したほか、学校図書館が読書センター及び学習・情報センターとして機能するよう、授業において学校図書館と図書資料等を積極

的に活用することについて「学校教育の指針」及び「本年度の重点」に示し、指導を強化した。

また、生徒による図書委員会活動の優れた事例を学校訪問の際に紹介するなど、学校図書館活動に関する情報提供に努めた。ちなみに、高校の図書委員会活動においては、秋田西高校の図書館便り等の発行や新入生オリエンテーションの実施、テーマ展示コーナーでの図書紹介などの活動が評価され、平成23年度文部科学大臣賞を受賞している。

○ 「子どもの読書活動優秀実践校」秋田県立秋田西高等学校の取組の紹介

(平成23年10月29日 文部科学大臣表彰)

- ・図書委員による「図書館だより」(月1回)・「図書館報」(年1回)の発行、新入生オリエンテーションの実施(各クラス1回)、クラス別貸出数の掲示(月1回更新)、生徒昇降口やテーマ展示コーナーにおける図書の紹介(月1回更新)により読書意欲の喚起に努めています。
- ・昭和60年から地域開放を行い、一般利用者へ貸出もしています。「利用のしおり」を配布したり「広報かたがみ」に利用案内を掲載したりすることで、地域に図書館の存在が浸透しています。
- ・学校祭での古本市や展示、図書委員による他校図書館訪問や他校図書委員との交流会(年1回)等のイベント的な取組により、積極的に情報発信も行っています。

④ 公立図書館の相互利用・連携の推進

○ 公立図書館等の相互利用・連携の促進については、読書活動推進に関する総合ホームページ「あきたブックネット」を開設し、市町村図書館などの関係機関のホームページとリンクを設定し、相互の連携を促進したほか、県内読書関連サークル等の活動状況や読書活動に関する施策等の情報を図書館利用者へ提供するなど、情報環境の整備を図った。

・あきたブックネットアクセス件数 2, 791件(H23.11.1～)

(4) 開放性

県民が本を選択する場としての公立図書館は、県民にとって利用しやすいものでなければならないことから、公立図書館等の運営に積極的に県民の視点を取り入れ、利用者の声に柔軟に対応していけるよう指導に努めた。

○ 公立図書館等をはじめとする社会教育施設の積極的な開放や、公立図書館等が利用しやすい施設となるための分かりやすい案内表示やサイン等の整備について、県立図書館の市町村図書館等への巡回訪問の際に助言したほか、具体的な案内図の設置等の環境改善研修を実施した。

第2 県民・民間団体・企業等による読書活動の推進

(1) ボランティア活動を担う人材養成と活動への支援

学校や各種施設での読み聞かせ活動やおはなし会の開催は県民に読書と接する貴重な機会を提供している。県民に読書を広めていくうえで、地域のボランティア等による活動は重要な役割を果たしているほか、図書館で活動するボランティアは、図書館における多様なサービスの一翼をも担っている。そのため、読書関連のサークル等ボランティア活動を担う人材の養成や活動支援を積極的に図ることを目的に次のような事業を行った。

- 読書活動推進に関する総合ホームページ「あきたブックネット」を開設し、読書活動に関する施策や各種助成事業等の周知に努めたほか、県内読書関連サークル等の活動状況等の情報を提供し、相互交流による活動の活性化を図った。

また、県立図書館や県子ども読書支援センターにおいて、読み聞かせに使用する大型絵本や紙芝居、人形劇や紙芝居等で使用する舞台等の貸出を行うなど、ボランティア活動への支援を行った。

(2) 活動団体等のネットワークづくり

読書関連サークル等民間団体は、他の団体と交流・情報交換することで、活動が活性化したり、新たな視点での活動が展開されるため、県内の活動団体のネットワークの構築に向けて、次のような事業を行った。

- 市町村の図書館等を中心に活動しているサークル等にアンケート調査を実施し、活動内容、活動場所、連絡先等を取りまとめ、読書関連サークル等に関する基本情報として「あきたブックネット」により提供した。

また、読み聞かせボランティア等のスキルアップと併せ、人的ネットワークの構築のため研修会を実施した。

・研修開催回数 7回(会場) 計190名参加

(3) 企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携

読書活動は、企業にとっても事業展開のヒントを提供してくれるものであり、また、従業員の福利厚生として重要な役割を担うことが期待されている。書店、出版社、新聞社などの読書関連企業は、県民読書活動の推進にとって大きな役割を果たしていることから、こうした企業と連携して県民への啓発活動に努めた。

- 県立図書館閲覧室内にビジネス支援コーナーを設置したほか、県民への読書啓発

のため県と県教育委員会が共同で実施する「読書フェスタ」や読書推進講演会において、県書店商業組合との連携で書籍の展示販売を実施、民間団体と共同での読書啓発に努めた。

また、病院や駅・空港の待合室において「スギッチリサイクル文庫」の設置の協力を得た。さらに、プロバスケットボールチームの秋田ノーザン・ハピネッツが社会貢献活動として行っている小学校での出前授業において、読書推進について話をしてもらうなどの協力が得られた。

・「スギッチリサイクル文庫」設置箇所数（病院等） 18箇所（再掲）



秋田ノーザンハピネッツの社会貢献事業
長谷川 誠選手による出前授業



秋田県書店商業組合による協力事業
読書フェスタにおける絵本展示販売

第3 読書をしやすい環境づくり

読書活動の公益的活動としての意義や効果を明確にしながら読書活動を促進していくため、行政、教育機関、民間団体、企業等と役割を分担し、一体的に読書活動を推進する気運の醸成に努めた。

（1）行政の取組

○ 読書活動への関心を高める取組として、いろいろな媒体を活用して県内関連事業の情報を提供し、広く浸透を図った。

・あきたブックネット

あきたゆかりの著名人による「おすすめの一冊」の紹介

読書クイズの掲載

「家族で読書」推奨標語入選作の紹介

・秋田朝日放送「サタナビっ！」における県読書事業情報の放送

・県環境浄化審議会で選定した「優良図書」の告示及び広報 など

○ 「読書週間」等を通じた啓発活動の一環により、子どもの読書活動優秀実践校と

して3校、優秀実践図書館・団体として1館・1団体を選定、文部科学大臣表彰を受けた。

○ 被表彰者

・優秀実践校

にかほ市立平沢小学校、湯沢市立稲川中学校、県立秋田西高等学校

・優秀実践図書館、団体

由利本荘市由利図書館、図書館ボランティア「ホワイトブックス」

○ 県生涯学習センターが生涯学習講座として実施し、学習状況に応じて単位認定を行っている「美の国カレッジ」において文学関係の講座を実施したほか、「生涯学習センター蔵書一覧」を作成し、利用者への情報提供に努めた。

○ 急速に普及している電子書籍等に関して、読書活動の促進の観点からどのように活用できるかを県立図書館が中心となって研究し、雑誌のバックナンバーや著作権の切れた資料などの電子化の検討を行った。

（２）学校等での取組

○ 子どもたちに読書の習慣をつけさせるためには学校での取組が欠かせないため、読書に親しむ時間の確保と充実、全校一斉の読書活動の継続的な実施、計画的で体系的な図書館の利用指導、学校の図書委員会活動の活性化等について指導主事の学校訪問や教育関係者の各種研修会等を通して指導するなど、取組の強化を図った。

○ 特に乳幼児については、早いうちから本に親しみをもつことができるよう、各幼稚園・保育所への訪問や各種研修会等を通しての指導、幼保推進課で発行する広報紙「幼保だより」の配布、保護者対象の啓発ポスターの配布等を通じた読み聞かせの奨励に努めた。

また、幼稚園や保育所における絵本や育児書の貸出等の事業を支援するため、図書購入費を補助する「子育て親子読書応援事業」を実施し、幼稚園・保育所による読書推進活動の促進を図った。

・助成施設数 27施設（11市町）

○ また、県立図書館等のセカンドスクールの利用^{*}を促進し、児童生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をサポートした。

※ 児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験や社会体験・共同生活体験等を行い、教科

学習として授業時数にカウントできる学習形態。

・セカンドスクール受入数 39校(228名)

(3) 家庭での取組

○ 日常的に家庭内での読書を可能とするためには、子どものころからの読書習慣の定着を図っていくことが重要となることから、家族が同じ本を読み、感想を話し合うことで読書の楽しさを共有し、読書がより身近にある生活環境をつくっていく「家族で読書」運動を進めた。

- ・「家族で読書」推奨パンフレット作成・配布 県内全小・中学生ほか
- ・「はじめよう！家族で読書」おすすめ50選のホームページでの紹介
- ・「家族で読書」推奨標語募集による啓発 応募総数 986点



「はじめよう！家族で読書」おすすめ50選（ホームページ上イメージ）

○ 「家族で読書」推奨標語【最優秀作品】

小学生の部 「旅に出よう 家族みんなで 本の国」
鈴木 香紀 秋田大学教育文化学部附属小学校 5年生

中学生の部 「家族で読書 大切な人と 大切な時間」
岩谷 美咲 三種町立山本中学校 2年生

一般の部 「リビングは 我が家の図書館 みんなで読書」
川平 陽子

○ 親と子どもが心のふれあいを深め、子どもの情感を大切に育むため、読み聞かせ絵本を紹介する「マザーズ・タッチ文庫」絵本52冊を選定し、毎週日曜日の秋田

魁新報家庭欄で紹介した。

(4) 職場での取組

- 企業などの職場においても読書活動推進を奨励するため、「我が社は家庭教育応援団」登録企業に対して、「スグッチリサイクル文庫」の設置の協力を依頼するとともに、「家族で読書」の取組について紹介した。

(5) 各民間団体等を通じた読書の普及・啓発

- 読み聞かせやブックトーク*など、民間団体による「読書をしやすい環境づくり」を支援するため、読書ボランティアグループ等を対象とした読み聞かせ等の「スキルアップ研修会」を開催した。

※ 子どもや成人の集団を対象にあらすじや著書紹介などを交えて、本への興味がわくような工夫を凝らしながら本の紹介をすること。

・ 研修開催回数 7回(会場) 計190名参加(再掲)



地域読書推進ボランティア等スキルアップ研修「やっぱり楽しい本の世界」

- 高齢者に対する読書の普及・啓発のため、「秋田L.L.大学園」への読書に関する講座を新設したほか、読書講演会等の読書関連のイベント情報を老人クラブ連合会等を通して各会員への提供を行った。

第4 読書に関する県民運動の推進

県民全体で読書活動を推進していくためには、県民が気軽に読書活動の推進に参加できるメニューを掲げ、読書に関する県民運動を展開していくことが重要となることから、次のような事業を行い読書活動の推進のための機運の醸成を図った。

(1) 読書の楽しみ

- 読書の意義や有用性について啓発し、県民の読書活動に関する意識を喚起するた

め、次の事業を実施した。

- ・読書啓発講演会の開催 4回(会場) 入場者 計 1,640名
平成23年7月28日 能代市文化会館
「読書は人間を豊かにする」 橋本五郎 氏
平成23年10月15日 県生涯学習センター
「ふるさとと本を語る ～文学・出版・映像の響き合い～」
三浦 衛 氏 大嶋 拓 氏 高橋秀晴 氏
平成23年11月5日 秋田ふるさと村
「心あたためよう 朗読とコンサートのつどい」
由紀さおり 氏 安田祥子 氏
真野響子 氏 眞野あずさ 氏
(※ 独立行政法人 国立青少年教育振興機構及び
財団法人 文字・活字文化振興機構との共催)
平成23年12月25日 県児童会館
「私の読書作法と文章修行」 西木正明 氏
- ・「読書フェスタ」の開催 来場者778名
- ・「家族で読書」推奨パンフレット作成・配布(再掲)
- ・「家族で読書」推奨標語募集による啓発(再掲)
- ・「あきたブックネット」によるイベント情報の提供(再掲)



西木正明氏講演会「私の読書作法と文章修行」(平成23年12月25日 県児童会館)

(2) 図書資料の確保・充実

○ 図書資料を確保・充実し、図書館等の個性化を図るため、秋田ノーザンハピネットの選手がおすすめする本及びそのパンフレット、来館者に提供する「ハピネット特製しおり」、展示用パネル等の展示パックを作成し、県及び市町村図書館での企画展の開催支援を行った。

- ・企画展開催回数 6回(館)

(3) いつでもどこでも読書

○ 読み聞かせボランティア、家庭・地域と連携を図り、「いつでも、どこでも」読書に親しむ環境づくりをするため、次の事業を行った。

- ・読み聞かせの楽しさを一般の県民にも伝えるための実演・講演会の開催

平成23年10月15日 県生涯学習センター

「絵本でげんき！」 武田美穂 氏

- ・秋田ノーザンハピネッツの試合会場に選手お薦めの本を展示、親子で本にふれあえるコーナーを設置 14試合(入場者数 32,496名)
- ・病院、駅、空港の待合室等に「スグッチリサイクル文庫」を設置(再掲)



秋田ノーザンハピネッツ試合会場での読書コーナー設置

Ⅳ 「達成すべき目標数値」平成２３年度実績

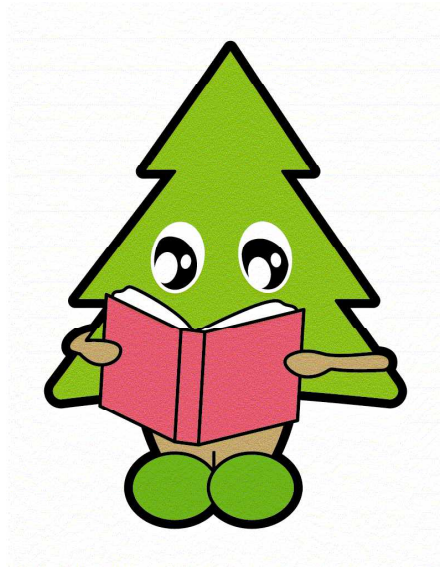
項 目		平成２７年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
県立図書館のホームページのアクセス件数		300,000 回	237,244 回	227,572 回	194,631 回
県立図書館のレファレンス・サービスの件数		44,000 件	38,792 件	35,879 件	29,931 件
県立図書館の年間貸出冊数		450,000 冊	413,271 冊	406,287 冊	433,561 冊
県立図書館の高等学校・特別支援学校図書館への貸出冊数		20,000 冊	13,434 冊	9,124 冊	8,705 冊
県立図書館のセカンドスクールの利用学校数		46 校	38 校	48 校	39 校
県人口１人あたりの市町村図書館貸出冊数		2.3 冊	2.03 冊	2.08 冊	2.07 冊
1). 2) 学校図書館図書標準を達成している学校の割合		(H26年度目標)	(H20年度調査)	(H22年度調査)	
	小学校	50 %	42.8 %	51.0 %	※ 1
	中学校	50 %	32.8 %	36.6 %	※ 1
2) 学校図書館を地域に開放している学校の割合	小学校	10 %	6.9 %	8.0 %	※ 1
	中学校	10 %	3.8 %	3.1 %	※ 1
	高等学校	10 %	6.3 %	6.8 %	※ 1
2) 読み聞かせボランティア等と連携して、読み聞かせや図書館の運営を実施している学校の割合	小学校	80 %	76.7 %	78.0 %	※ 1
	中学校	20 %	12.2 %	13.2 %	※ 1
	高等学校	10 %	5.4 %	5.4 %	※ 1
	特別支援学校	100 %	80.0 %	82.0 %	85.0 %
2) 全校で取り組む読書活動を実施している学校の割合	小学校	100 %	100 %	100 %	※ 1
	中学校	100 %	99.3 %	98.4 %	※ 1
	高等学校	75 %	65.1 %	59.3 %	59.3 %
	特別支援学校	100 %	75.0 %	73.0 %	77.0 %
子ども読書の日や子ども読書週間における関連事業の実施件数		25 市町村	14 市町村	20 市町村	23 市町村
		75 件	37 件	84 件	124 件
学校図書館を活用した授業を、１学期に数回程度以上計画的に行っている学校の割合	小学校	80 %	68.1 %	66.3 %	※ 2
	中学校	60 %	49.3 %	43.5 %	※ 2
読書活動の調査で、「読書が好きだ」の設問に「強くそう思う」「そう思う」を回答した児童生徒の割合	小学校	80 %	78.6 %	80.1 %	※ 2
	中学校	80 %	76.1 %	76.5 %	※ 2
	高等学校	80 %	55.2 %	59.5 %	59.5 %
読書活動に関する調査で、「１月に読んだ本の冊数」の設問で最も多い回答	小学校	11～12 冊	3～4 冊	3～4 冊	3～4 冊
	中学校	5～6 冊	1～2 冊	1～2 冊	1～2 冊
	高等学校	1～2 冊	読まない 冊	読まない 冊	読まない 冊
3) 県民意識調査で、県民が本や雑誌、新聞等を１日平均３０分以上読む人の割合		(H27年度目標) 70 %	(H22年度調査) 60.3 %	(H23年度調査) 58.4 %	(H24年度調査) 6月調査、 9月公表予定
子ども読書活動推進計画を策定した市町村数		25 市町村	3 市町村	5 市町村	6 市町村
子ども読書支援センターを設置した市町村数		25 市町村	3 市町村	3 市町村	5 市町村

1) 標準を達成するに当たっては、古い図書資料の除籍を行うことも十分に配慮する。

2) この調査は、２年に１度しか行われていないため、年度が１年ずれ、２１年度の欄がＨ２０年度調査数値、２２年度の欄が２２年度調査数値、２７年度目標は２６年度目標となる。（特別支援教育課を除く）

3) この調査は、平成２２年度からの実施。

※ 1： １１月に調査実施、年度末公表予定。（文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」）



秋田県マスコット スギッチ